

いたしん ニュース

ITAMISHI KONCHUKAN NEWS

第9号 2007 / 7

特集 いたみのセミ、近くのセミ



撮影：堺勝重（伊丹市昆虫館友の会）



伊丹市昆虫館

ほっとパーク昆陽池



こやいけNOW

このコーナーと同名の企画展「ほっとパークこやいけ」では、毎回、皆さんに昆陽池公園の魅力を紹介するために、様々な展示方法を試みています。平成19年度の「ほっとパークこやいけ」（会期：平成19年4月11日から7月2日）では、「こやいけNOW」というユニークな名前の展示コーナーを作ってみました。これは名前の通り、昆陽池公園の「今」、すなわち「NOW（ナウ）」な情報を皆さんにお知らせすることを目的にしたもので、昆虫館のスタッフが昆陽池でみつけたNOWな情報を、デジカメ写真と簡単なコメントで紹介するのです。また、見つけた（出会った）場所も、昆陽池いきもの情報マップでわかるようになっています。そして情報の内容によって、昆虫を紹介する「むしNOW」、花を中心に植物を紹介する「はなNOW」、野鳥を紹介する「とりNOW」の3コーナーに分けて展示しました。せっかくの機会なので、展示に使用した「こやいけNOW」の中でも選りすぐりのものを、紙面を借りて紹介してみようと思います。



むしNOW No.19 4月20日 クマバチ
撮影者：奥山清市
「クマバチのオスがホバリングしながら縄張りをはっています。怖がる人もいますが、オスは毒針を持たないので人間を攻撃しません」



むしNOW No.12 4月18日 ナナフシモドキ 撮影者：河上仁之
「昆虫館入り口のカシの木の若い葉にいます。さがしてみましょー！」



はなNOW No.3 3月23日 バタフライガーデン 撮影者：長島聖大
「昆虫館の入口を飾る花壇です。チョウやいろんな生き物に出会えます」



はなNOW No.10 4月27日 ハナミズキ
撮影者：野本康太
「ほぼ満開です。春には花、秋には赤い実が楽しめます」



とりNOW No.7 4月5日 エナガ
撮影者：大塚信一
「巣立ったばかりのエナガが飛び回ってました。驚かさないようにそっと撮影しました」



とりNOW No.24 5月29日 コバクチョウ 撮影者：大塚信一
「給餌場にて食事中的のコバクチョウ、ヌートリアも一緒にお食事中？」

「とりNOW」に協力して頂いた大塚さんは、昆陽池公園でよく野鳥撮影をされている方で、昆虫館スタッフとも顔なじみです。今回の企画では、貴重な写真をたくさん提供していただきました。来館者の注目度も高かった「こやいけNOW」ですが、運営にはひとつ大きな問題がありました。それは「NOW」な情報は、すぐに古くなり「OLD」になってしまうことです。しかし捨てたりせず、昆陽池公園の貴重な記録のバックナンバーとして、これからも大切に保管していきたいと思っています。（奥山清市）

むしムシ虫眼鏡

Vol. 9 頭上で鳴くコオロギ

7月下旬から10月下旬、昆陽池公園の林からは「ヒンヒンヒン」とリズムカルな音が聞こえてきます。聞きなし（音を言葉で表現すること）によっては「チンチンチン（キンキンキン）」といった金属をたたくような音にも表現されます。音の正体はカネタタキというコオロギの仲間の昆虫で、鉦かねをたたくような鳴き声を持つことから名前がついたようです。コオロギといえば「コロコロリー」と鳴くエンマコオロギのように、草むらにすむイメージが強いのですが、林の中や木の上をすみかとする種類も多くいます。体長1センチほどの茶色い体に、とても短いはねをもつ（メスにははねがない）カネタタキは夜だけでなく昼にも鳴きまします。例えば昆陽池公園のウバメガシの木の枝を棒でたたき白い布で待ちうけるとその姿を目にすることもできます。また、カネタタキは、林に限らず住宅地の庭木の茂みからもその鳴き声が聞こえてくることがあります。野外では朽ち木や樹皮の隙間等に産みつけられた卵で冬を越すそうですが、昆虫館の温室では1年中発生しているようで、ブーゲンビレア等を剪定している時によく見

つかります。カネタタキの「ヒンヒンヒン（チンチンチン）」のように、鳴き声だけで種類が分かってしまうこともよくあります。これからの季節、目をこらすだけでなく、耳を澄まして自然を観察してみてもいいかもしれません。新しい発見があるかもしれません。（野本康太）



<カネタタキ>

学名: *Ornebius kanetataki*

分類: バッタ目カネタタキ科

体長: 7~11mm

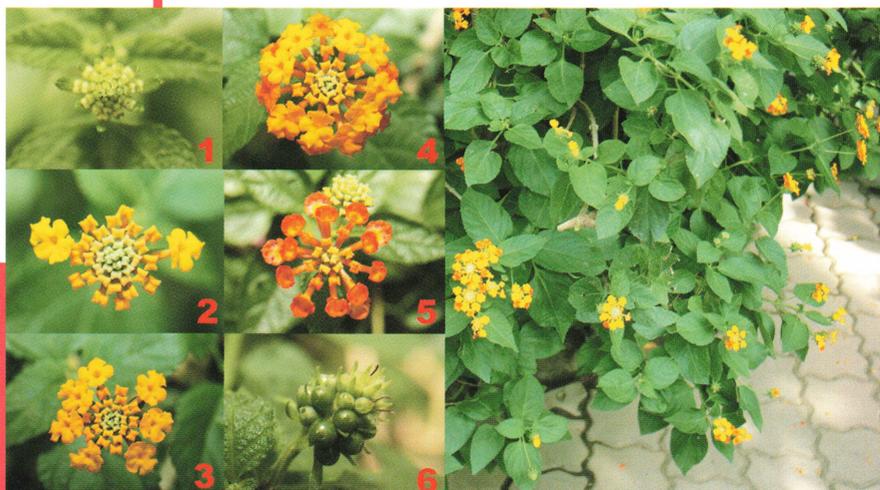
亜熱帯の温室から

Vol. 9 ランタナの七変化

ランタナは暖かい温室内では周年開花する植物ですが、その花は開花段階によって変化するので見ていて飽きません。

右の写真は、つぼみから結実までを順におって撮影したもので、数字はつぼみから結実までの段階です。同心円状に集まって咲く小さな花は、外側から順番に開花していき、個々の花弁の色は開花後も微妙に変化しつづけます。一株で様々な表情を見せてくれるので、「シチヘンゲ（七変化）」という別名

があるのもうなずけます。性質も強靱で育てやすく、チョウの訪花成績も良好なので温室植物担当のお気に入りのひとつなのです。（長島聖大）



<ランタナ>

学名: *Lantana camara*

分類: クマツヅラ科

特集 いたみのセミ

夏はセミの季節です。いろんなセミたちがバリエーション豊かな鳴き声を聞かせる代表的なセミたちを紹介します。今年の夏は、セミ博士をめざしてみよう！（長

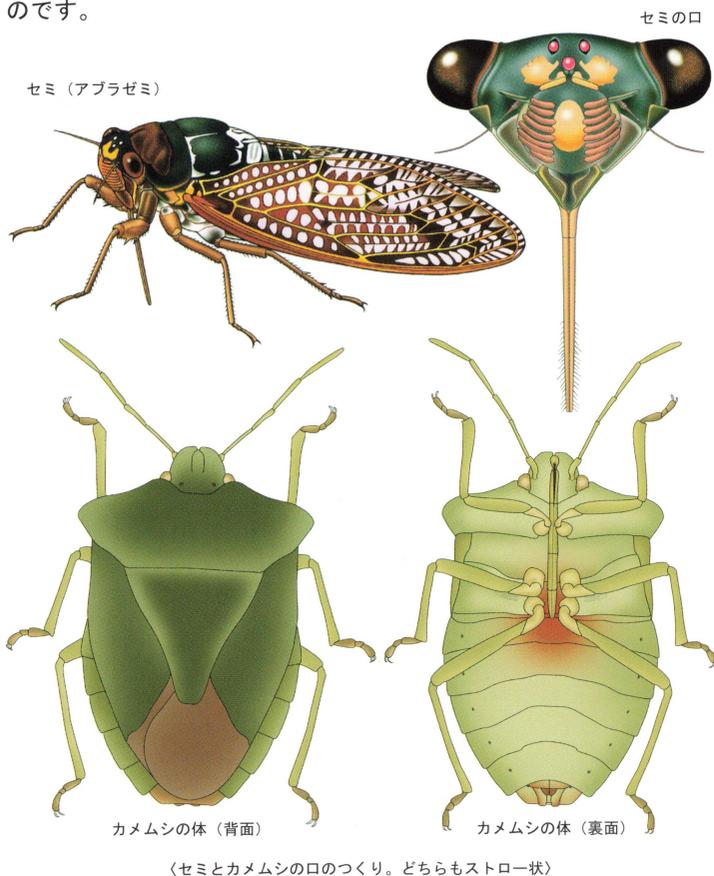
セミの不思議と魅力

不思議いっぱいの夏の風物詩

セミは夏の風物詩としてみなさんよくご存じだと思います。大型の昆虫だし、暑くなってくると鳴き声はイヤでも聞くことになるし・・・でも実はまだまだわかっていないことがたくさんある不思議で素敵な虫なのです。ここでは伊丹周辺で見られる種類を中心に、セミの魅力を紹介したいと思います。

実はカメムシの仲間なんです。

「セミ」は、昆虫の中ではカメムシ目セミ科に属するグループのことで、その体をよく観察すると、カメムシと同じく口の部分がストローのようになっていて、エサの汁を吸うのに適した形「吸汁口（きゅうじゅうこう）」になっています。不思議なことにセミとあのかさいカメムシは、共通の祖先をもつ近縁な仲間なのです。



〈セミとカメムシの口のつくり。どちらもストロー状〉

鳴くのはオスだけ

セミがオスしか鳴かないというのは意外と知られていません。オスは仲間どうしでのなわばりあらそいや、メスをさそうために鳴くようです。実際に音を出しているのはお腹にある発音膜（はつおんまく）というところで、専用の筋肉でこの膜をふるわせて音をだしています。さらに、後ろあしのつけねにある腹弁（ふくべん）とよばれる部分を動かして、音色の調節をしています。



オスの腹弁はよく発達している

夜の神秘、羽化の瞬間

セミの一生はおおむね3年以上といわれていますが、くわしいことはまだよくわかっていません。成虫の寿命は数日～数週間ほどしかなく、一生のほとんどを土の中で幼虫ですごします。十分に大きくなった幼虫は、夏の夜（だいたい日没～午後8時ぐらい）に地上へはい出てきて、木の枝などに登り、数時間かけて羽化します。

羽化したばかりの成虫ははねも体も白っぽく、なんとも神秘的な姿をしています。



セミの羽化の様子

、近くのセミ

てくれます。今回の特集では、セミの持つ魅力と、伊丹や周辺の山で観察でき
(聖大・奥山清市)

伊丹とその周辺のセミ ミニ図鑑

日本に分布する32種のセミのうち、夏に伊丹市内で出会うことができるのは、クマゼミ・アブラゼミ・ニイニゼミ・ツクツクボウシの4種類で、伊丹の周辺の山まで足をのばせば、ミンミンゼミやヒグラシ等も観察することができます。セミの鳴き声が聞こえたら、目をこらしてその姿を探してみましょう。種類によって鳴き声だけでなく、鳴く時間帯もある程度決まっています。

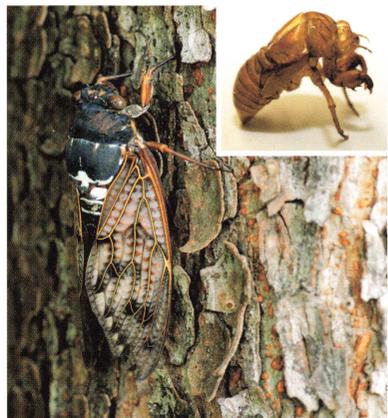
クマゼミ

大型のセミで、体が黒くツヤがあります。午前中を中心に「シャーシャー」もしくは「ワシャワシャ」と鳴きます。抜け殻はアブラゼミに似ますが、中あしと後ろあしの間に“おへそ”のようなでっぱりがあるのが特徴です。乾燥に強く、近年は都市公園を中心に個体数が増えているといわれています。



クマゼミの成虫と抜け殻（矢印は“おへそ”を示す）

アブラゼミ

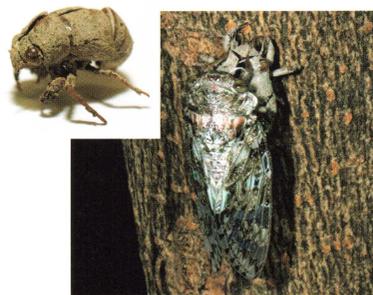


アブラゼミの成虫と抜け殻

茶色のまだら模様のはねを持つセミで、背中にはよく目立つ白い模様があります。伊丹では寺社の森などの、よく木が茂ったうす暗い場所に多く、午後の時間を中心に「ジージリ・・・ジリージリー」と油を揚げるような声で鳴いています。抜け殻にはほとんど泥がつかず、クマゼミのものよりツヤがあります。

ニイニゼミ

小型のセミで、はねは白地に灰褐色のまだら模様です。日中に「チー・・・」と長く鳴きます。抜け殻も小さく、体の表面が泥でおおわれています。



ニイニゼミの成虫と抜け殻

ツクツクボウシ

細身の体に透明なはねをもちます。発生時期がほかのセミに比べて遅く、8月の初めから、初秋の頃まで見ることができます。午後を中心に「ツクツクオーシ・・・」と鳴きます。



ツクツクボウシの成虫

ミンミンゼミ

ずんぐりとした体に透明なはねをもつセミです。西日本の平地ではあまり多くありません（東日本では平地の最普通種のひとつなのです）。昆陽池公園でもごくたまにその声を聞くことができます。「ミンミンミンミンミー」とよくとおる声で鳴きます。



ミンミンゼミの成虫

ヒグラシ

ツクツクボウシに似ていますが、腹部がより明るい茶色をしています。早朝と夕方に「カナカナカナ・・・」と涼しげな声で鳴きます。夏の終わりに鳴くイメージがありますが、山地では7月の始めごろから鳴いています。



ヒグラシの成虫

【さいきんの

チョウの人工飼料飼育

チョウの幼虫は、種類によって決まった植物の葉しか食べません。このような植物は食草と呼ばれ、チョウの飼育には欠かせないものなのです。しかし、年中チョウの飼育をつづけている間には、食草の調子や生育が悪い時期があるため、人工飼料を使った飼育も行っています。

カイコ用の配合飼料には栄養成分やミネラル以外に、食草となるクワの葉の粉末が既に配合されています。当館のチョウの飼育には、クワの葉が入っていない配合飼料に、それぞれの食草粉末を混ぜて昆虫

館スタッフがつくっています。水、配合飼料、食草粉末、寒天が材料です。できあがりには、まるで「羊羹（ようかん）」のようです。

人工飼料でうまく飼育できる種類もあれば、なかなか難しいものもあり、現在もいろいろな方法を試しています。食草粉末は、生の葉がたくさんある時期に切っておき、電子レンジなどで乾燥させミルで粉碎し、冷凍保存しています。食草粉末は長期保存できるため、チョウの飼育数とその食草の生育の様子を見ながら使用し、安定したチョウの飼育をめざしています。（角正美雪）



食草粉末（リュウキュウガシワ）



人工飼料をつくっている様子



できあがった人工飼料



人工飼料で飼育しているスジグロカバマダラ

1本の木にすむ昆虫をまるごと採集！フォギング調査



フォギング調査の様子
マスクと防護服を着てフォグマシンを使う

1本の木にはいったいどれくらいの昆虫がくらしているのだろうか？そんな素朴な疑問に答えるべく、フォギング法という調査を行ないました。フォギング法とは殺虫成分を含んだ煙を樹木に噴霧し、落ちて来た昆虫を全て回収する

という特殊な調査法のことです。

6月20日の早朝4時30分、事前に許可を得た川西市のクヌギ林に昆虫館スタッフと友の会運営委員の合わせて6名が集まりました。まず、昆虫が好む樹種としてクヌギ・コナラ・アベマキの3種を選び、株元にブルーシートをしきます。次にフォグマシンをつかってそれぞれの樹木に約10分間、煙を焚きます。その後約3時間かけてブルーシートに落ちてきた虫を拾います。私は母校の大学へ機材を借りに行ったとき、「すごくたくさん昆虫が採れて驚くよ」と言われていたのですが、実際にその目で見てさらにビックリしました。ガやナナフシの幼虫、小さいハエなどが無数に落ちてきたほか、コクワガタが「ポトッ！」と落ちてきたときには思わず声をあげてしまいました。

この調査結果は今夏の特別展「となりの森にくらす虫」（7月18日～9月2日）で紹介する予定です。一本の木にすむ昆虫の量は想像以上にスゴイです！（長島聖大）

飼育室から

はちみつカフェを開催しました



はちみつカフェの様子

昆虫館で飼育しているミツバチが集めたおいしいハチミツを味わってもらおうというイベントです。2回目の今年は、昆

6月17日、特別カフェイベント「はちみつカフェ」を開催しました。これは4階展望テラスに1日限りのカフェをオー

虫館をベースに活動している「伊丹ニホンミツバチ研究会」の方々と一緒に行いました。ハチミツの純粋なおいしさを味わっていただくシンプルで低価格なメニューとし、当日はミツバチやハチミツのことをよく知ってもらおうと、様々なイベントも行いました。

梅雨入りして天気が心配でしたが、当日は青空がひろがり暑い1日となりました。暑いこともあって、冷たい「ちょうちょドリンク」が大人気。急きょ増産し、大忙しとなりました。食べ物では「ハチミツホットケーキ」が大人気で、お昼には売り切れてしまいました。直前に新聞に取り上げていただいたこともあって、おかげさまでその日は1,200名を越す方々が来館し、カフェだけでなくミニコンサートやハチミツ絞り実演も大にぎわいとなりました。(坂本 昇)

伊丹で35年ぶり!?ツマグロキチョウ発見!!

今年の4月14日、伊丹市内で行われた観察会「春の原っぱへでかけよう!」で大発見がありました。参加者の方々と河川敷を歩いて採集した昆虫のなかに、ツマグロキチョウというチョウが入っていたのです。このチョウは環境省のレッドデータブックで絶滅危惧Ⅱ類(絶滅の危険が増大している種)とされ、伊丹市内での確認はなんと1972年9月9日以来の35年ぶりでした。慌てて昆虫館の標本庫を確認すると、35年前の標本が残されており、改めて標本の大切さを実感しました。採集者(上村喜一氏)と同定者(五十川謙氏)が友の会会員で、35年前の確認者(河上仁之氏)も、友の会副会長(昆虫館解説員)という

のも喜ばしいことです。今回発見されたツマグロキチョウの標本は各紙に掲載された新聞記事と共に展示中

です。(野本康太)



ツマグロキチョウ(学名: *Euerema lacta*) シロチョウ科
キチョウやモンキチョウに似ているがはねの形や模様で区別できる。幼虫の食草はカワラケツメイ(マメ科)。かつては阪神間にも普通に見られたそうだが、食草の減少とともにチョウも姿を消しつつあるようだ。

可動式標本棚入りました!



伊丹市昆虫館の2階標本庫に、棚が横にスライドする可動式標本棚ができました。今までは部屋の壁に沿って既存のスチール棚が配置してありましたが、

そこに入りきらない標本箱や展示資料がテーブルや床に積み重ねられた状態でした。そのような中では資料を探すことも一苦勞。そこで、収納スペースを有効かつ効率的に活用するため、可動式標本棚を導入しました。なんとドイツ式標本箱にして約700箱分が新たに収納できるようになりました。もちろん今までの棚も使用しています。この標本棚のお陰で、昆虫館の資料収蔵は当面大丈夫そうです。(角正美雪)

2007ムシと関西～3つの昆虫館シールラリー～

昨年までの3年間はスタンプラリーでしたが、今年は新たにシールラリーになりました。

シールシートを持って、きんきにある3つの昆虫館（箕面・橿原・伊丹）をまわってみませんか？各昆虫館のシールを全部集めると、オリジナルバッジがもらえます。開催期間は平成19年7月1日（日）から平成19年9月2日（日）までです。

（角正美雪）



昆虫写真コンクールを開催します

昆虫館では、12月12日から昆虫写真コンクール「いたこんでフォトコン」を開催する予定です。企画の詳細や写真の応募方法などについては、8月ごろからホームページや館内ポスター・チラシで告知する予定ですので、カメラの腕に自信がある方は今のうちから心の準備をしておいてくださいね！（奥山清市）

新作映像ソフト「むしのあかちゃん」

昆虫館映像ホールの上映ソフトに、新作「むしのあかちゃん」が仲間入りしました。ツダナナフシやオオカマキリ、クマゼミのあかちゃんなどの貴重な誕生シーンが満載ですので、ぜひ見てください！（奥山清市）

特別展「となりの森にくらす虫」と夏期開館時間延長

7月18日～9月2日の期間、特別展「となりの森にくらす虫」を開催します。この特別展開催期間中は、昨年に引き続き閉館時間を1時間延長し、開館時間が9：30～17：30となります。昆陽池公園駐車場も18：00まで営業時間を延長いたします。（坂本 昇）



全国昆虫施設連絡協議会が伊丹で開催されます

昆虫飼育の技術向上や自然保護活動等の情報交換を通じ、全国の昆虫館園連携の強化と資質の向上を図ることを目的に設立された全国昆虫施設連絡協議会という組織があります。北海道から沖縄まで29もの昆虫館園や組織が加入しており、もちろん伊丹市昆虫館も会員です。各館もちまわりで会議を開き、活発な意見交換を行っています。この協議会が伊丹で13年ぶりに開かれます。詳細については未定ですが、関連イベントも企画していますので、ぜひ注目してください。（奥山清市）

もよおしあない

| | |
|----------------|---|
| 8月 | 12(日) 昆虫折り紙アート講座 |
| | 18(土) 夏休みむしむし相談室 |
| 9月 | 1(土) 万華鏡づくり 協力:篠山チルドレンズミュージアム 予約制 |
| | 1(土) 虫聴き観察会 予約制 |
| | 9(日) 昆虫折り紙アート講座 |
| 10月 | 13(土) ふれあい体験「むしさんこんにちは」 |
| | 14(日) 昆虫折り紙アート講座 |
| | 21(日) うらがわ探検 |
| 11月 | 11(日) 昆虫折り紙アート講座 |
| | 17(土) ふれあい体験「むしさんこんにちは」 |
| 12月 | 1(土) ナチュラルリースづくり講習会 予約制 |
| | 9(日) 昆虫折り紙アート講座 |
| | 15(土) ふれあい体験「むしさんこんにちは」 |
| 23(日) チョウ温室ガイド | |

特別展

7/18～9/2 となりの森にくらす虫

企画展

9/5～10/22 すずめばち
10/24～1/28 昆虫食
12/12～1/28 昆虫写真コンクール「いたこんでフォトコン」

プチ展示

6/20～9/10 昆虫採集と標本作り
9/5～10/15 こおろぎ・ばった みんなのいながわ
9/12～10/29 カメムシ2
10/31～11/26 ナナフシの七不思議
11/28～1/21 昆虫顔面写真
11/28～12/24 ポインセチアとさなぎツリー

講習会・観察会の申込方法 くわしい内容は... 申し込むには...

- 伊丹市内に在住の方
「広報伊丹」をごらんください。
- 伊丹市外に在住の方
電話でお問い合わせください。
「広報伊丹」は伊丹市のホームページからごらんになれます。

(講習会・観察会の実施日の約1ヶ月前～2週間前までにお問い合わせください)。
* 広報伊丹は実施日の約1ヶ月前に掲載します。
電話でのお問い合わせは掲載以降に案内いたします。

- 往復ハガキ、FAX、Eメールでおこなえます(締切日必着)。行事の名前、参加する全ての方の住所、氏名、年齢(学年)、電話番号、FAX番号、Eメールアドレスなど記入し、受付期間内にお送り下さい。
- 申込多数の場合は抽選になります。
- 往復ハガキの宛先住所 〒664-0015 伊丹市昆陽池 3-1 伊丹市昆虫館
- FAXの宛先番号 072-785-2306
- Eメールの宛先アドレス ge7n-skmt@asahi-net.or.jp

| | |
|--------------|-----------------------|
| 〒 | 参加希望の講座名 |
| 返信 | 参加希望者全員の 名前・学年(年齢) |
| あなたの住所 氏名 | 住所 |
| | 電話番号 |
| | (往復ハガキでの申し込み・表) |

| | |
|------------|-----------------|
| 〒664-0015 | 伊丹市昆虫館 |
| 伊丹市昆陽池 3-1 | 何もしないで ください |
| 行 | |
| | (往復ハガキでの申し込み・裏) |

編集スタッフより

そろそろクマゼミの大合唱に昆陽池が包まれる季節、うるさいけれど一応これも夏の風物詩ですね。（奥山）最近外に出るとなぜか雨が降ります。でも雨男と呼ばないで！（長島）

次回(第10号)発行は、2008(平成20)年2月ごろの予定です。

表紙写真: アブラゼミの羽化(2006年7月、昆陽池公園) 撮影: 堺勝重(伊丹市昆虫館女の会)

いたこんニュース 第9号 Vol.5 No.1 (通巻9号)

2007(平成19)年7月発行

発行 伊丹市昆虫館

〒664-0015 伊丹市昆陽池3-1 昆陽池公園内

TEL: 072-785-3582 FAX: 072-785-2306

URL: http://www.itakon.com/

E-mail: ge7n-skmt@asahi-net.or.jp

編集 奥山清市・長島聖大

デザイン原案 pico*pictures

印刷 兵田印刷工業株式会社